道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

完走者にはタオル♪先輩ランナーと。

三好礼子
エッセイスト・国際ラリースト
～http://www.fairytale.jp/～

高校生の頃の夢は、カタツムリのような住処を荷台に積んだ小さなトラックで世界中を回ることでした。アメリカの親子が、木製のそれで放浪している写真を見て感動したからでしたが、雪が舞う大草原でニコニコしていたあの少女は、今40歳半ば代くらい。どんな暮らしをしているのか、とても気になります。私も朝霧高原のトレーラーハウス暮らしを得て、現在は一般住宅に住んでいますが、今の夢も、やはり変わりません。味のあるエコカーで世界中を回りたい。たまにホテルもいいけれど、私の五つ星は、満天の空の下。毎日という訳にはいきませんが、来年は少しだけ近づくかもしれません。

愛車のルノー・コレオスは、2・5リッターの四駆で、トレランの相棒としては最高だと選んだ一台です。実際、荷物の取り出しが楽なリアハッチバックや荷台になるリアゲートはいつも惚れ惚れ。汚れ物もなんなくあちこちに収納できます。この4年半、運転席のシートを倒して仮眠を取っていましたが、先日、山羊と馬のおやつにするリンゴを農家から運ぶ時に、ピピーン。後部座席を倒してフラットにすると、乾燥餌が2つ入るくらい広いのですが、斜めなら寝られそうです。試すと、身長164センチの私にぴったり。以来、マットやシュラフを積み込んで、あれこれ微調整。零下になると鉄板は冷たく、半端な養生では凍えてしまうので、真剣に悩みました。

ウォークスルー＆座って作業も可能なり。万能コレオス万歳！住めそうなくらい快適でした。

神流川と大会会場に挟まれた極上の河川敷パーキング。手前2列目の右端（オレンジ）が愛車です。

実は今年は2週間に一度のペースでトレラン大会に出場していたので、外泊はなんと150日。安宿探しはうまくなりましたが、宿だから快適という訳ではなく、音・空気・匂い・食べ物・宿主など快眠にはいろんな要素が関わってきます。同じペースでトレランに出ている仲間の彌生ちゃん（バレリーナ！）は、経費節約でいつも愛車で寝ているのですが、温泉と美味しい地元食を味わい、結果も快調。「歳なので身体を労って」とホテルを選択していた私ですが、野外活動要素が多いレースが多くなってきたので、これからは山歩きや野宿を頻繁に取り入れることにしました。

来週はテントやシュラフを担いで70キロほど走るオリエンテーリングに出るのですが、30代の山岳経験時代に使っていたコンロやチタンの鍋やカップを取り出すと、涙がでそうになるほど懐かしかった。「百名山を目指していたっけ」。あの頃も、日本一周ツーリングをした10代も、バイクで走り回っていた20代も、パリダカの30代も、基本は野宿でした。身体に染み付いたあの体験、なかなかよかったなあ？

と、せっせと道具を積んで先日私が向かったのは、群馬県の神流町。「第7回神流マウンテンラン&ウォーク」の40キロクラスに出る為ですが、迷わず車中泊を決めました。第2回大会からのご縁ですが、「日本で一番温かい大会」というお墨付きを戴いたランナー憧れの大会です。クリック合戦を制してエントリーできましたが、大会と自然を守るため、参加者を700人台に抑えています。民泊も楽しいのですが、今回は野宿の練習しなくては。この日は雨で気温が高くて暑かったのですが、コレオスの荷台ベッドは快適でした。懸念していたパーキングも、選手のために拡大したという河川敷の仮設は真っ平らでパーフェクト。熟睡したお陰で、膝痛はあったものの、なんとか完走できました。

しかし、ブームと共に独自に進化を遂げている各地の大会ですが、神流のそれは地元の意志と結束が素晴らしく、実に上手に運営されていました。かつてバイクで走っていた御荷鉾スーパー林道は、現在別の道が出来たことで通行量は激減しましたが、そこがコースの一部なので、私は懐かしくてたまりません。当日は雨と霧で景色は望めませんでしたが、町の方々の声援（年々増えている！）や300名を越えるボランティアさんたちの温かいフォローで、心はホコホコ。スタート直後の老人ホームの声援から始まって、ゴールしたら、町の和菓子屋さんが作った「トレランどら焼き」にビックリしたり。地元の高校生や一般人もたくさん選手参加しており、町中が楽しんでいるのが伝わってきます。味噌にコンニャクに蕎麦にお酒と、食べ物にも満足しまくり、まさに五感が「いいね！」。汗を流して元気を貰った私たちが町を去った後は、いつもの静かな神流。今回は車中泊であまりお金を落とせませんでしたが、また必ず来るね。その頃は更に「達人」になっているかもしれませんが。

〈写真提供：神流マウンテンラン&ウォーク実行委員会〉

雨のスタートでも応援の人と声で熱気ムンムン。思わず笑顔で応える選手たち（白いレインが私）。

田村町長とプロデューサーの鏑木さんを交えての記念撮影。完走率は93.3%。おもてなしは日本一！

身近な道路の生い立ち③

廃線跡から広域観光へ

東洋大学国際地域学部・准教授
志摩憲寿

前回とりあげたニューヨークのハイラインに続き、ふと気になった国内の廃線跡のお話をしたいと思います。とりわけ、過疎化にモータリゼーションの進展が追い打ちをかけた地方では多くの廃線を見ることとなりました。銚子電気鉄道をはじめ、その後「復活」を遂げた廃線もありますが、決して多くはありません。

NHK連続テレビ小説「まれ」の舞台にもなった能登半島には、能登半島の中心都市・七尾市から奥能登の玄関口・穴水町を経て日本海の珠洲市に至る国鉄七尾線と能登線は廃止が決定されますが、その後、昭和62年、のと鉄道株式会社が設立され、これら2線を運営することとなりました。一時は回復しつつあった経営状況は再び厳しいものとなり、平成13年には七尾線の一部（穴水～輪島間）と能登線の全線が営業を廃止することとなりました。しかしながら、その廃線跡はいま新しい観光資源として活用されています。

地元の酒造会社が中心となって取り組む「のトロ」はその一つですが、足こぎトロッコを漕いで、廃線となったかつての能登線・恋路駅から玄宗トンネルに入ると・・・、そこからはお楽しみです。

さて、「都市観光」や「観光まちづくり」が言われる近年、どの都市でも地域の観光資源を掘り起こすことに力を注ぎ、もちろん、のと鉄道沿線の各都市もその例に漏れませんが、単独でやってゆける都市はごくごく少数で、現実的には、複数の都市で観光資源をネットワーク化させる広域的な観光に生き残りの策があり得るということになるでしょう。そこで出てくるのが廃線跡。廃線跡は、多くの場合、勾配が緩いため、その後サイクリングロードに利用される例もあるようです（例えば、かつての筑波鉄道線の廃線跡など）。もちろん、利用方法はさまざまかと思いますが、これを中小都市の点在する地方に活かしてみましょう。とりわけ、日本海沿岸・太平洋沿岸には、かつて西廻海運・東廻海運で栄えた、さまざまな規模のかつての港町として栄え、明治以降はこれらの都市に鉄道が敷設されることとなりますが、その後、多くは廃線ということになってしまいます。しかし、見方を変えると、それは「廃線跡」が多く存在しているということ。これが都市と都市を結ぶネットワーク網として再び活用できるかもしれません。

現在は一部に留まる「のトロ」の取り組み、その後、ネットワークは広がるでしょうか。

参考文献：のと鉄道株式会社（http://www.nototetsu.co.jp/）、能登町観光ガイド「奥のとトロッコ鉄道」（http://www.notocho.jp/feature/notoro/）

奥のとトロッコ鉄道「のトロ」は能登鉄道七尾線の廃線を利用した新たな観光資源。修復された駅舎はグッドデザイン賞を受賞している。

ハッと思いました

先月のラグビーワールドカップでの日本チームの戦いぶりには、痺れました。スポーツを見ていて、あれほど熱く引き込まれたのは久しぶりでした。

何度もラックでポイントを作り、ボールを支配しながら度重なる波状攻撃。モールでキープしたまま押し込んでいく場面が何度かありました。「うぉぉ。すっ、スゴイ」。スクラムだって負けてない。世界レベルの試合はプレイが止まる事が少なくて、とても面白いものです。

日本選手の戦う魂が国を超えて理解されていたのが日本のキックの時じゃないでしょうか。スタジアムの数万の観客が一瞬、シィ～ンと静まり返っていたのを覚えていますか。他の試合ではあれほど静まり返る事はなかったのではないかと思います。「ワン・フォー・オール。オール・フォー・ワン」、そして、「ノー・サイド」。屈強な男たちによる勝利に向けての執念、激しいプレイと試合終了後の紳士的な態度はラグビーのみならず、日々の生活の中において、大切な事だと再認識させられました。

そんな時、「一億総活躍」と言われて、「そうだ。一人一人が、常に頑張らなけゃなんねえな。よぉーし、ふんどし締め直して・・」と思っていたところ、何やら遠くから耳に入って来る言葉が、「一億総活躍って何だ？」、「死ぬまで働け、働け。働いてお国にご奉仕しろって事じゃないのかねぇ？」。

いやいやそんな事ではありませんよ。みんなで助け合っていきましょう。出来る事を一生懸命やりましょう。と言う事です。よね。

一つお願いが許されるのなら、国家が国民に伝えるメッセージにおいては、国民が理解できる言葉でお願いしたいものです。

近頃は、新語、造語、略語など、マスコミや若者の言葉にいらつく日々が続いてきたものですから。これまではかりは、「そんな時代ですから」で済ませてほしくありません。

さて、先日、メガネを新調しました。検眼後、夜・昼の運転用、偏光レンズなど色々な種類を説明されました。メガネ族としては最も気になるのが、雨降りの夜の運転です。対向車のライトのぎらつきが大敵です。明るく照らされる事は安全面からも良い事でしょうが、対向車には危険が増す事も考えられます。

出来ればクルマのライトの光軸を同じ高さにするとか、車高アップなどの改造による光軸移動は厳しく罰するとかの対策も重要です。街の中で走行する時、自分だけ明るく見えても安全は保てないですからね。

これから「一億総活躍」でボールを確実に渡し、受取りゴールへと突き進まなければなりません。そこには隣人への思いやりも必要です。ところでラグビーはボールですが、「一億総」では何を繋ぐのかな？分かりやすい言葉がほしいな。